



議会だより

No.152

令和8年8月6日

松崎



《主な内容》

第2回定例会（6月4日・10日）

- 令和8年度補正予算・他……………2
- 議員会町内視察・視察研修……………4
- 町政を問う 一般質問に7議員……………5～11



議会だより、定例会一般質問動画は松崎町議会ホームページでも視聴可能です。



松崎町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

「こども未来議会」

令和 8 年第 2 回定例会

令和 8 年第 2 回定例会が、6 月 4 日と 10 日の 2 日間で開催されました。

本定例会では、令和 8 年度補正予算案など 8 議案について審議を行い可決・承認しました。

一般会計補正予算

補正予算（第 1 号）は、歳入歳出にそれぞれ 9 9 4 万 7 千円増額し、補正後の額を 45 億 9 2 9 4 万 7 千円とするもの。



議場の様子

歳入では、過疎対策事業債を増額し、県単独農業農村整備事業費補助金を減額しました。

歳出では、地域おこし協力隊活動支援業務委託、空き家改修等事業補助金、過疎地域持続的発展特別事業基金積立金、指定ごみ袋製造業務委託、松崎小学校費修繕料、松崎中学校費修繕料などを増額しました。また、公衆無線 LAN 更新事業を工事請負費から委託料に、道路維持費の修繕料と道路等応急対策業務委託の一部を道路等包括管理業務委託に組み替えました。歳入不足額 7 6 8 万 8 千円は、財政調整基金から繰り入れました。

問 地域おこし協力隊活動支援業務委託の委託先は決まっているのか。効果をどの程度見込んでいるのか。

答 企画観光課長 南伊豆町の地域おこし協力隊でふるさと納税を担当していた方が起業した事業所の委託を考えている。既存のふるさと納税のシステムを使いこなせていなかった部分を、委託により補完していく。

問 道路等包括管理業務委託は災害対策業務とは違うのか。幹事を担う事業所の負担が大きすぎないか。

答 産業建設課長 静岡県県下土木事務所からの声かけにより、包括的に一年間を通じ道路などの管理を委託するもの。県の広域的な枠組みに松崎町も入って実施していく。幹事を担う事業所の負担は町も入って軽減を図り、不都合になる部分は改善しながら実施していく。

問 指定ごみ袋製造業務委託について、袋の規格の変更を検討したか。

答 生活環境課長 指定ごみ袋の製造費は、現在販売価格で賄えており、規格の変更などは検討していない。

問 中学校の雨漏り修繕の対応は。

答 教育委員会事務局長 防水シートでの対応を予定していたが、今般の事情により実施できなくなったため、実施可能な修繕を検討して、早急に対応していきたい。

問 ふるさと納税は民間からの派遣職員を活用している。派遣職員の活動は、地域おこし協力隊活動支援業務委託と異なる内容なのか。

答 企画観光課長 返礼品を増やす活動をしていた。今回の委託は、既存のシステムの活用等と、サイトを増やし、広報の方法を改善していく。

岩地漁業集落排水事業会計補正予算第 1 号

反対討論

なし

賛成討論

集落排水事業は、地区の管理組合により適切な維持管理がなされているが、施設の老朽化という課題に直面している。本補正予算は、施設の維持を図るための必要な予算である。よって本案に賛成する。

ほかに雲見漁業集落排水事業会計補正予算第 1 号も可決されました。

第2回定例会の概要・賛否状況一覧

議会名	議案番号	件名	藤井昭一	菜野良枝	高橋良延	小林克己	深澤守	高柳孝博	藤井要	議決状況
第2回定例会	議案第30号	専決処分の承認を求めることについて (松崎町税条例の一部を改正する条例) 地方税法等の一部を改正する法律(令和8年法律第2号)が令和8年3月31日に公布され、同年4月1日から施行されたことに伴い、専決処分した松崎町税条例の一部を改正する条例の承認。軽自動車税環境性能割の廃止や個人住民税の住宅ローン控除の適用延長などの改正。	○	○	○	○	○	○	○	承認
	議案第31号	専決処分の承認を求めることについて (松崎町国民健康保険税条例の一部を改正する条例) 地方税法施行令の一部を改正する政令が公布され、令和8年4月1日から施行されたことに伴い、専決処分した松崎町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の承認。低所得者に係る軽減拡充のため、軽減判定所得の算定において被保険者の数に乘すべき金額の引き上げ、子ども子育て支援納付金の新設などの改正。	○	○	○	○	○	○	○	承認
	議案第32号	松崎町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について 地方税法施行令の一部を改正する政令が公布され、令和8年4月1日から施行されたことに伴い、松崎町国民健康保険税条例の課税限度額について、国の法定限度額に合わせ基礎課税額(医療分)を1万円増の67万円に改正。	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第33号	松崎町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について 非常勤消防団員等に係る損害補償の基準を定める政令の一部を改正する政令が令和8年5月27日に公布・施行されることに伴い、松崎町消防団員等公務災害補償条例の非常勤消防団員等が公務等により死亡した場合における葬祭補償の額について、政令に合わせ改正。	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第34号	松崎町消防組合施設整備基金条例の廃止について 下田地区消防組合において施設整備を行うことに要する経費に充てるため、平成25年4月に同基金が設置されたが、平成27年度以降の施設整備は、共通経費となり、新たな積立は行っておらず、今後も積み立てを行わない方針であることから、基金条例を廃止するもの。	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第35号	令和8年度松崎町一般会計補正予算(第1号)について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第36号	令和8年度岩地漁業集落排水事業会計補正予算(第1号)について 岩地集落排水処理施設において、破碎機の更新が必要となり、資本的支出の建設改良費1,000万円を計上。	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第37号	令和8年度雲見漁業集落排水事業会計補正予算(第1号)について 雲見集落排水処理施設において、中継ポンプ及び調整槽ポンプの取替が必要となり、資本的支出の建設改良費1,000万円を計上。	○	○	○	○	○	○	○	原案可決

賛成：○ 反対：× 欠席：－

議案番号	件名	小林 克己	
		正	(誤)
議案第21号	令和8年度松崎町温泉事業会計予算について	○	(×)
議案第22号	令和8年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計予算について	×	(○)

賛成：○ 反対：× 欠席：－

お詫びと訂正
(議会だよりNo.151号)
前回の議会だより6Pの「第1回臨時会・第1回定例会の概要・賛否状況一覧」の表記に誤りがありました。お詫びして訂正します。

工事の効果などをチェック
議員会町内視察

5月29日、議員会は、令和7年度に施行された工事箇所の中から11カ所を選定し、現場視察を実施した。

主なものは次のとおり。

◎令和6年度（繰越）及び令和7年度（令和6年度繰越）緊急浚渫事業推進債
準用河川南川堆積土砂浚渫業務委託
（第2工区：1840万円）
（第1工区：253万円）



南川の堆積土砂浚渫

南川の河口付近から旧松崎保健支援室付近までの延長461mに堆積していた土砂を2つの工区に分けて浚渫した。

第2工区、延長270m、浚渫工VⅡ8000m³。
第1工区、延長191m、浚渫工VⅡ55m³。



伏倉橋の橋梁補修

◎令和6年度（繰越）伏倉橋橋梁補修工事
（工事費：6124万円）
塗装塗替え工406m²
金属補修工
ひび割れ補修工
断面修復工
表面保護工 など



雲見風早地区の治山工事

◎令和7年度 県単独治山事業
雲見風早地区治山工事
（工事費：1229万円）
令和4年の台風の影響による大雨により被害のあった雲見風早地区に、谷止工を追加で実施した。この治山工事で予定していた工事は全て完成し、安全性が向上した。

◎令和7年度 県単独農業農村整備事業
農道伏倉山崎線道路改良工事
（工事費：1866万円）
鮎川農地整備に伴い、伏倉橋から農地の道路を複数年に分けて実施。

視察研修

6月26日、総務常任委員会は、西伊豆町議会と合同で、埼玉県大里郡寄居町のごみ処理施設を視察した。

可燃ごみの資源化施設

毎日約300トンもの可燃ごみを溶融して再資源化処理している民間施設のオリックス資源循環（株）を視察した。この施設は、焼却灰などが一切発生しない最先端の再資源化処理をしている。



オリックス資源循環株式会社

焼却灰の資源化施設



ツネイシカムテックス株式会社

毎日約300トンもの焼却灰を建築資材などに再資源化している民間施設のツネイシカムテックス（株）を視察した。
この施設には、松崎町の焼却灰の約30%（年間約90トン）を受け入れて、リサイクル処理している。

問
ごみ処理など広域事業は

答
他市町へごみ搬送も検討



藤井 要 議員



動画

問 南伊豆地域清掃施設組合の解散のため、3月末に下田の施設改修案などの結論を出すことになったが、5月19日の報告でも、広域処理を含めごみ処理方法を検討していくと、結論が先延ばしになった。町は今後どのような方針で行くのか。

答 (町長)

下田市施設は費用面などを含め検討が遅れており、クリーンピア松崎の長期継続には雨漏り防止など、多額の改修が必要

なため、他市町への搬出も相談していきたい。

問 西豆地区に高校があることで地域の教育力も上がり、幼保から小中高と一貫した教育がなされ地域にとって松崎高校は欠かせないものであると述べているが、存続に向けての重要施策は何か。

答 (町長)

小規模な学校だからこそ可能な地域連携、世代を超えたつながりなど、通常の学校教育では得ら

れない学習環境を整えていく必要がある。町だけでなく松崎高校、西伊豆町、地域全体での取り組みが重要と考えている。

問 花とロマンで集客を

答 里山歩きツアー推進

問 河津町には「NOOのコモドドラゴン」、南伊豆には「オニテナガエビ」養殖などの話題がある。遊休農地の解消と歴史と文化を生かした観光振興による相乗効果により、お金をかけずに観光客を呼び込む、年間を通して色とりどりの花が咲く「令和の花とロマンの里」構想はできないか。

答 (町長)

遊休農地は耕作が第一である。商店街に子どもたちの絵を飾る「僕らの町が美術館」など、漆喰ときれいな街並み歴史と文化の町を発信していく。

問 伏倉橋上流の河川敷

は車止めがあり侵入できない。観光面からも解放できないか。

答 (町長)

違法駐車などの交通トラブルがあり閉鎖された。県の管轄であるため、県と相談していきたい。

問 道部吉野橋上流の水

路の柵渠が壊れているが、工事計画はないのか。

答 (産業建設課長)

道部の柵渠は、現況確認しているが、経過を観察しているところであり、現時点において工事の計画はない。



▲道部吉野橋上流の水路

中央左側のコンクリート製の柵渠が壊れている。

問 AI教育の進捗は

答 教育の改善に寄与

問 教育現場でのAIによる子どもたちへの利用状況について伺う。

答 (教育長)

学習の効率化など大きなメリットがある一方で、学校教育は単なる学力向上だけでなく、人格や社会性の形成も含まれている。AI導入が過剰になると人間性が軽視される恐れもあるので、AIを道具として捉え活用する必要があると考えている。

問 使用料金の見直しは

答 考えていない



小林 克己 議員



動画

価格は約3億4400万円。
南伊豆町入間地区の合併処理浄化槽への転換は、68基設置、費用は約1億4300万。浄化槽の設置場所がない世帯があり、漁港施設内に1基と、町道内に1基を設置している。南伊豆町と同様の合併処理浄化槽への転換は設置場所が課題となると予想される。

問 伊豆地区は汚水処理施設の維持管理や設備更新の経費を一般会計から繰り入れる市町が多い。当町も令和6年度決算で、1900万円を一般会計から繰り入れている。国は集約型から分散型へ転換し経営改善を図るため下水道法を改正した。この先、三浦地区の集落排水処理施設の維持管理費用が大きくなると見込む。今後の長期的なビジョンは。

答 (町長)

令和6年度岩地集落排水事業会計決算を例に説明。収益的収入1253万9958円のうち497万8000円が繰入金。その内資本的支出の財源となる減価償却費は286万2001円。そのほかに、企業債償還金30万円と企業債利息5万1562円も、地方公営企業繰出金の基準内繰入となり、一部が地方交付税として交付される。岩地の施設は昭和61～63年度に整備され、固定資産取得

問 伊豆市では一般会計からの繰り入れおよび赤字を減らすため、今秋、使用料金の38%値上げを予定しているが、当町の使用料金の見直しはあるか。

答 (町長)

施設を各地区が管理することで費用が抑えられている。国が示す汚水処理原価を超えているので、見直しを考える状況にはない。

問 使用料で回収すべき経費をどの程度使用料で

まかなえているかを示す経費回収率は、令和6年度、雪見73%、石部63.4%、岩地68.2%。令和7年度の数値は。

答 (生活環境課長)

集計、計算中であり、9月定例議会です。

問 夏季無料開放は

答 考えていない

問 夏季、町内学生にB&Gプールを無料開放してはどうか。

答 (教育長)

今のところ考えていない。また、今後も無料開放は考えない。



▲B & Gプール

問

クリーンピア松崎の操業は

答

少なくとも2年間の延長



高橋良延 議員



動画

問 最も老朽化が進んでいる下田市の施設を改修し、利用することが最善の計画となるのか。

答 (町長)

下田市の施設を改修して利用する理由は、施設の処理能力になるが、費用面なども含めて検討が遅れている。他市町での受け入れも相談していきたい。

問 令和10年3月までとなっているクリーンピア

の操業延長とごみ処理事業の方向性をいつまでに結論を出すのか。

答 (町長)

少なくとも2年間の延長協議と、ごみ処理事業の方向性を令和9年3月までに行いたい。

問 南伊豆町と同様、ごみの町外搬出をどう考えるか。また、町外搬出を近隣自治体と共同で行う考えは。

答 (町長)

整備費や運営費などの財政負担を考えたときに可燃ごみの民間への町外搬出の方が安くなる可能性がある。他市町と共同で搬出することも踏まえさまざまな比較をしていきたい。



▲ごみを燃やさない南伊豆町の町外搬出の様子

問 松崎高校の存続は

答 選んでもらえる学校に

問 松崎高校の本年度の入学者は16人で、松崎中学校と西伊豆中学校の卒業生だけを見ても、進学率は3割にも満たない。

大幅に減少した要因をどう分析し、今後の具体的対策をどう考えているか。

答 (教育長)

本年度から私立学校の授業料支援が大幅に拡充されたことも影響があったと思う。特色ある教育プログラムなどの付加価値が必要だと考える。

問 県は2040年には、現在の県立高89校を50から60校程度にするとしている。松崎高校を存続していくための町のアクションプランは。

答 (教育長)

小規模な高校でも選んでもらえる学校を目指し町単独の取り組みだけでなく、高校、西伊豆町、地域の関係者が連携した取り組みを模索したい。

問 職員の高い離職率は

答 大きな課題

問 3年間で1800万円の公金を投じ、職員の

人材育成を委託した成果は。

答 (町長)

今回の委託により飛躍的な効果が得られたとは言いが、職員間のコミュニケーションの改善や組織課題を可視化して改善していく仕組みづくりが進んだ。

問 継続的に人材育成を行っていくための人材育成計画は策定され、職員に周知徹底しているのか。

答 (町長)

現在のところ人材育成計画は策定していない。

問 この3年間で19人の職員が退職しており、一般の自治体の離職率と比較しても異常値である。離職防止の具体策は。

答 (町長)

組織運営や職場環境のあり方についても継続的に検証し、「働きやすさ」と「働きがい」の両立を実現したい。

問

医療・介護の今後の方針は

答

支援の協議体設立で



高柳孝博 議員



動画

問

近隣の歯科医院が減少した。産婦人科もなくなり、今後は診療所の減少も予想される。

①IT技術を活用した診療等も含めて、地域包括ケアシステム構築の進捗はどうか。

②移動の負担を軽減する福祉タクシーの利用傾向と今後の展望はどうか。

③医療・介護サービスを継続的に提供するための新たな施策はあるか。

答

(町長)

①町内のオンライン診療については進んでいない。

②利用傾向は、買物支援が増加傾向にある。課題である制度の統一化を検討していく。

③日常生活に困りごとのある方への支援がないことが挙げられている。協議体を設立して有償ボランティアなどを含め、お互いに支え合っている地域づくりを進めていきたい。

問

高齢者福祉計画は

答

松崎町に合う健康対策で

問

医療機関や商店の減少で移動負担は増加する。高齢者への更なる通院支援が必要と考える。福祉タクシーなどの拡充についてどう考えるか。

答

(町長)

地方では交通空白が大きな課題である。ライドシェアや移動販売なども含め松崎町に合った移動手段を模索する。

問

高血圧や脳血管疾患が多い原因を年齢補正して分析すべきと考える。松崎町特有の健康課題を明確にして、対策する考えはあるか。

答

(町長)

高血圧や脳血管疾患は高齢化と塩分摂取が要因であり、健康増進・介護予防を推進する。高血圧、糖尿病対象者への訪問指導を実施する。

問

DXで業務改善を

答

活用していきたい

問

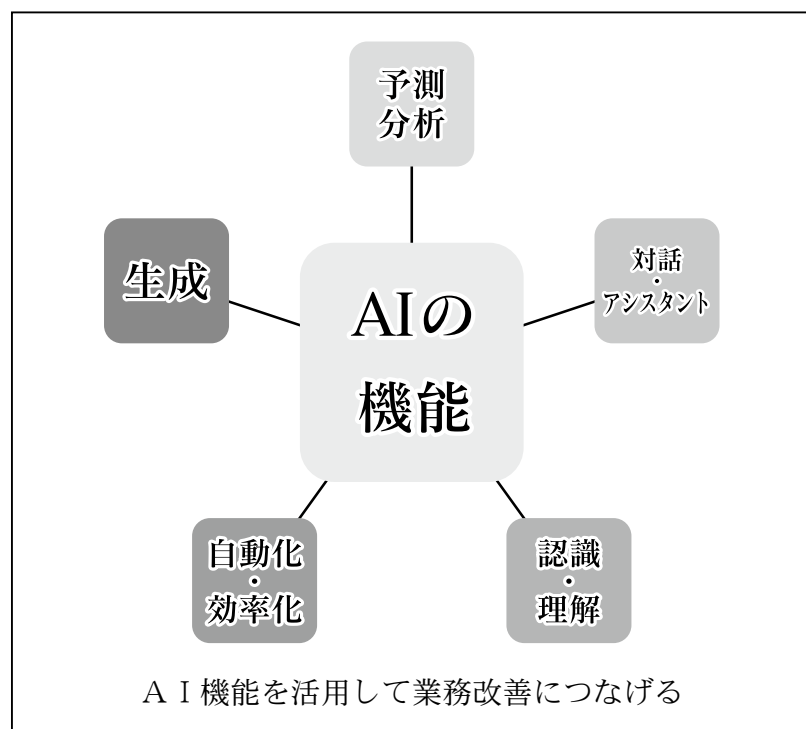
デジタル化は目的ではなく「業務改革」が目的と考える。

①デジタル化の進捗は。②業務効率化の進捗は。③AIを活用したツールの導入など、業務効率化の計画はあるか。

答

(町長)

①電子決裁システムの運用開始で効率化している。②公金支払いのキャッシュレスなど実施している。③ロゴチャット・ロゴフォーム・ロゴAIを導入している。現在、具体的な導入予定はない。



問 防災公園整備の用途は

答 令和10年度着手が目標



菜野のよしえ 議員



動画



「道の駅」花の三聖苑伊豆松崎駐車場に設置された県のコンテナトイレ

問 災害時に避難所などへ最優先での配備が必要なトイレ、食事、寝床の備蓄はどのくらいか。

答 (町長)

令和8年4月時点で、トイレは139基、食料5万8800食、飲料水2万8300リットル、ベッド類255台を備蓄。これらは避難所の倉庫などに分散保管している。

問 防災備蓄の課題は。

答 (町長)

予算の確保、保管場所、訓練実施などがある。

問 三聖苑に設置された県のコンテナトイレの使用と管理は。

答 (企画観光課長)

基本的には災害時に使用、通常時は管理のみ。

問 防災公園整備着手の予定はいつ頃か。

答 (町長)

令和9年度に関係機関との協議や財源などの準備を進め、10年度に予定。

問 防災公園に整備するヘリポートは、ドクターヘリの活用もできるか。

答 (町長)

そういった活用も視野に入れている。整備した際には、自衛隊の大きいヘリコプターも降りられるようにしたい。

問 世帯数が少ない自主防災会では、防災訓練の強化は難しい。合同での訓練はできないか。

答 (総務課長)

そういった提案をしたと考えているが、地区の自主性を最優先に取り組んでいる。

問 女性登用の現状は

答 管理職は0人

問 役場の管理職、審議会・委員会の女性割合は。

答 (町長)

女性管理職は0%、審議会・委員会などは6年度21% (61人)、7年度19% (54人) で減少している。

コンパッションタウン松崎というまちづくりを進めており、ジェンダーに捉われないまちづくりが目標であるが、管理職となるとそれなりの実績と経験が必要で、課長になつてくれと言える方がいない状況でもある。

問 女性防災リーダー育成講座受講者へフォローアップ研修や、町で開催する防災研修への参加を呼び掛ける考えはあるか。

答 (町長)

改定した地域防災計画の内容や地域の防災状況を踏まえ、必要に応じて研修や講座の開催を検討したい。

問 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」の協力を得て、松崎中学校において講座を開催する考えはあるか。

答 (町長)

12月上旬頃に実施する予定で現在内容や進め方について調整している。

問 松崎高校の存続問題は

答 3者協議を開始へ



藤井 昭一 議員



動画



西伊豆地区唯一の県立高校。松崎高校の
入学者が減少している。

問 県は高校の入学者が2年連続で15人を下回ると募集停止、つまり廃校と定めている。今年度の松崎高校の入学者は16人であった。町はこの状況をどのように受け止め、魅力化に向けてどのような取り組みを進めていくか。

答 (町長)

入学者の減少は深刻で、進学者確保は喫緊の課題である。松崎高校は地域の学びの拠点であり、町としても西伊豆町・松崎高校と3者で協議をして存続に向けて取り組む必要があると認識している。

問 これまで町はどのような魅力化の取り組みを行ってきたか。

答 (教育長)

西豆学による棚田、林業、看護、保育実習といった実際の職業現場での体験や探究活動、中高一貫教育の推進などに取り組んできた。高校教員が中学校へ出向く授業連携も強化している。

問 今後、新たな魅力化策に町の予算を投入する考えはあるか。

答 (教育長)

西伊豆町とともに現在予算化している取り組みに加え、必要に応じて新たな予算確保も検討する。

問 全国で成果を上げている「公営塾」の設置について、空き教室に町の予算で公営塾「令和の三余塾」を作り、学びの場とする案をどう考えるか。

答 (教育長)

学習支援として効果は期待できるが、民間塾への影響もあり慎重な検討が必要。松崎高校では補習やICTの活用などの学習支援も行っている。

問 幼児教育の未来は

答 現状維持で工夫

問 現在、松崎幼稚園の子どもは9人。3年後には6人と松崎町子育て支援計画に示されているが、

子どもたちの集団での学びができるのか。

答 (教育長)

世代を超えたふれあいの場など創意工夫で、集団での学びや成長を最大限に引き出していきたい。

問 文科省の幼稚園教育要領にも幼児期の集団での多様な関りからの学びの重要性が明記されているがどう考えるか。

答 (教育長)

幼稚園の子どもは、最低でも2から4人以上は必要と考えている。

問 松崎幼稚園と聖和保育園を統合し、公私連携型認定こども園に一本化する考えはあるか。

答 (教育長)

町と民間が協力して子育てを進めていけるというメリットはあるが、施設や経営方針の面で簡単な問題ではない。関係者間で十分な検討と調整が必要と考える。

**まちのつなぎ役の
ための学び合い講座**
2026年度 松崎町

だれかの「困った」に応えるために
互いに、ともに、学び合いませんか。

日程	5月17日(日)	各団体の活動紹介
	7月11日(土)	シンポジウム
	9月27日(日)	ワークショップ
	12月20日(日)	つながりの検討
	3月13日(土)	各チームの活動報告

＊それぞれの活動の場を訪ねる企画も用意しています＊
(6月頃発表予定)

時間 13:30~16:00
会場 松崎町環境改善センター2階
お問い合わせ 松崎企画観光課(42-3964)

松崎町公式LINEから
お知らせします→

申し込み不要・どなたでもご参加いただけます

▲2026年版学び合い講座チラシ



深澤 市長

守 議員



動画

問 町民参加の施策は

答 学び合い講座に参加を

問 総合計画の推進には、町民と協働していく必要があるが、町民がより積極的にまちづくりに参加するための施策はあるか。

答 (町長)

第6次総合計画では計画を進める推進力「きょうどう」としており、地域構成員が自らの課題の所在を認識し、自律的に、町内外の主体と「きょうどう」を図りながら地域課題を解決したり、地域としての価値を創造していく地域力は欠かせないと考えている。

多くの方にまちづくりに参加していただくため、まちのつなぎ役のための学び合い講座を開催しているの、引き続き参加を呼びかけるとともに、今後は、それぞれの活動を継続しつつ、すでにある住民活動を掘り起こし、つなぎ合わせ、お互いに学び合い、助け合い、住民の多様な活動につなげていきたいと考えている。

問 町のつなぎ役のための学び合い講座の開催目的と成果を伺う。

答 (町長)

まちのつなぎ役のための学び合い講座は、総合計画で定めた町の将来像「ここでは、誇り高く、穏やかに、豊かに生きられる『コンパッションタウン松崎』の実現を目指し、5つの重点施策ごとにチームで活動し、報告を共有している。

「命を守る防災」チームは、防災士会などと連携した訓練の実施。「安心して、最後まで暮らせるコミュニティ」チームは、ハート&ヘルプ事業の見直し。「土地の恵み、豊かさ、誇りを大切に受け継ぐ」チームは写真展や古道の整備などさまざまな取り組みが行われている。また、5月の講座では、学び合い講座以外の町内団体(花の会、ウェルネスまつぎ、歌を育てる会など)の活動も報告された。

問 中学校の統合は

答 令和12年統合を目指す

問 西伊豆町との中学の統合はいつまでに結論を出すのか。

答 (町長)

令和8年2月に開催された第1回中学校統合推進協議会において、令和12年4月の統合を目指すこととなった。今後は、統合後の中学校の設置場所をどこにするか、どのように運営していくか、またどのような学校にしていくなかについて、両町で協議を進めていくことになる。

これに関連して、静岡大学の准教授や県教育委員会からは、学校の将来像を構築するための基本構想や基本設計の重要性についてご指導をうけている。こうしたアドバイザーを踏まえ、計画を順序立てて着実に進めていく方針である。

次の定例会は、9月2日(水)からの予定です。

議会のうごき

4月

- 7日 広報編集委員会
- 16日 議会だより151号発行
- 22日 中学生との懇談会（こども未来議会）

5月

- 19日 議会全員協議会
- 20日 重要問題懇談会
- 22日 賀茂郡町議会議長会総会（松崎町）
- 26日 町村議会議長・副議長研修会（東京都）
- 27日 議会運営委員会・広報編集委員会
- 29日 議員会工事現場視察（町内）

6月

- 1日 静岡県地方議会議員連絡協議会総会（静岡市）
- 4日・10日 第2回定例会
- 5日 静岡県町村議会議長会総会（静岡市）
- 26日 総務常任委員会視察研修
- 27日 町民と議員の懇談会（台風接近のため中止）

表紙の写真は、7月16日、中学3年生の松崎町役場での研修（こども未来議会）で議場を見学しているときのもの。



この人に
聞きました④
BLOOM MATSUZAKI
原田 俊夫 さん
原田 真貴子 さん

町内で活動している皆さんを紹介するコーナーです。今回は、松崎町の特産品ECサイトを運営する原田さんにお話を伺いました。

○活動の内容について教えてください。

私たちは2年前に川崎市から移住して来ました。蔵らに通ううちに、松崎町で頑張っている方々と交流して、応援したいという気持ちが大きくなり、インターネット上で商品

を販売し、決済まで完了できるwebサイト（ECサイト）運営を行うことにしました。

「花とロマンの里」が、花咲く（BLOOM）ようにという思いから、サイト名を決めました。

現在、30人位の方たちの農産物やクラフト商品など約160点を販売しています。

また、蔵らで一部商品を販売しています。

○課題や今後の活動は。商品を出品してください

る方は、積極的にやっている方が多いので、一緒に商品数を増やしていきたいと思っています。

○町への要望はありますか。

特産品などの周知を、松崎町と協力して、多面的に情報発信し、多くの方に松崎町を知っていただくきっかけになればうれしいです。

（聞き手 編集委員長

発行責任者

議長 田中道源

編集委員長

高柳孝博

編集委員

藤井昭一
菜野良枝
高橋良延
小林克己
深澤守
藤井要

海鳴り

六月定例会では、複数の議員から松崎高校に関する質問があり、地域と学校の在り方について活発な議論が交わされました。人口減少が進む中、子どもたちの学びの場をどう支えていくかは、町の未来を左右する大切なテーマです。

また初めての試みで、西伊豆町議会と合同で埼玉県寄居町のごみ処理施設への視察研修を行いました。両議会による勉強会・懇談会も開催し、活発な情報共有と意見交換ができたことは、両町の未来にとっても大変有意義なものでした。

議会は、目先の課題に対応するだけでなく、百年後、二百年後の松崎の姿を見据えて歩みを進めていかねばなりません。これからも町民の皆さまとともに、未来につながる議会運営に努めてまいります。今後とも議会活動へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

（議長）